

「確かな力」と「学ぶ楽しさ」

今、私たちを取り巻く社会は、日々、グローバル化や情報化が進み、これまでにないほどのスピードで姿を変えています。

未来を担う子どもたちがこうした変化に対応し、

社会をつくる一員となるためには、

自ら学び、考え、他者とともに協調しながら、

あらゆる問題に、柔軟に挑んでいくことが求められます。

「主体的に関わる子ども」

「いつも問い続ける子ども」

「しなやかに生きる子ども」

新しい教科書の編集を始めるにあたって

私たちが目指したのは、このような子どもたちの姿です。

そして、その願いを実現するため、

次の二点を編集の基本方針としました。

■ 確かな力が身につく教科書

■ 学ぶ楽しさを感じられる教科書



■ 確かな力が身につく

自分の言葉で考え、問い続け、解決を図る——言葉の力は、生涯にわたる「生きる力」となります。力が確実に身につくよう、学習の目的を明示し、子どもたちが見通しをもって学べる教科書にしました。

↓ P6 「単元冒頭・学習の手引き」紹介へ

■ 学ぶ楽しさを感じられる

「学ぶこと」そのものの楽しさを味わうとともに、教室という場でみんなで学ぶ楽しさを知ってほしいと考えました。子どもたちの知的好奇心を刺激し、言葉で人とつながる喜びを体験できる教科書にしました。

↓ P8 「あそび」紹介へ

↓ P10 「言葉の準備運動」紹介へ

↓ P10 「言葉の準備運動」紹介へ





単元冒頭・学習の手引き

学びの流れが分かる
身につける力が、はつきり分かる

「何を」「どのように」学ぶのかを明示しました。
はつきりとした見通しをもち、
主体的に学ぶことができるよう、紙面構成を一新しました。

「読むこと」単元

単元目標

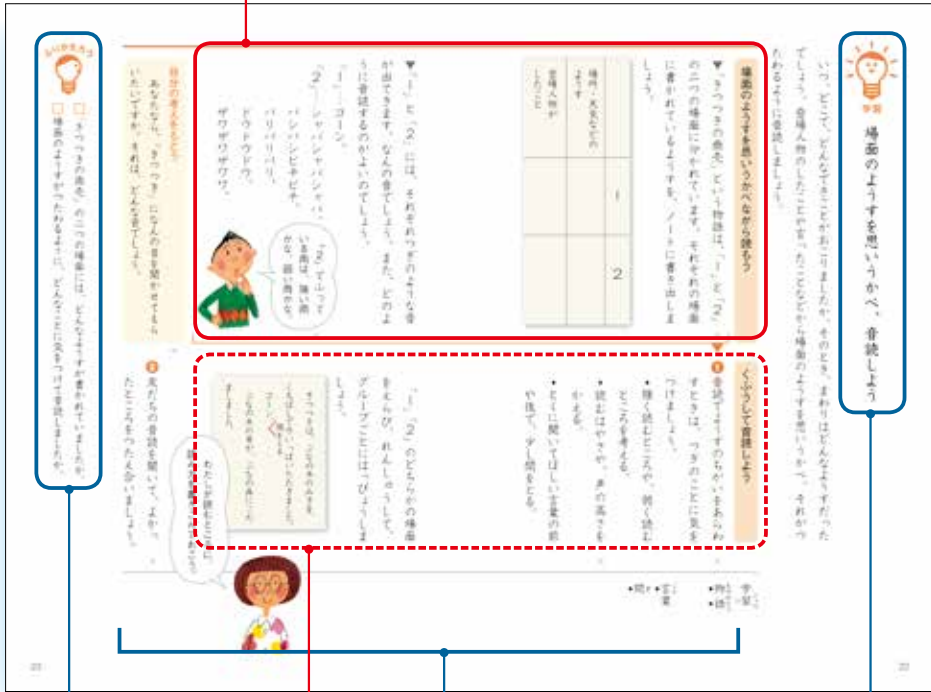
つきたい力と言語活動を
明示しています。



①目標を確認する

▼学習の手引き
(P22-24)

上段 よりよく読むための課題
(指導事項に即した読みの力を育む設問)



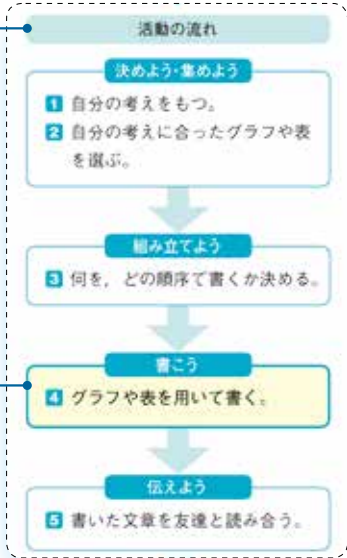
②課題に取り組む

③学習を振り返る

下段 活用するための課題 (言語活動の手順)

下段

「話すこと・聞くこと」 「書くこと」単元



単元冒頭の「活動の流れ」で、学習の見通しをもつことができます。

単元での活動の重点には色を付け、明確に示しています。

▶5年「グラフや表を用いて書こう」冒頭 (P149)

指導事項を焦点化して

横浜国立大学教授 高木まさき

言語活動を通して指導事項を身につける——そのような授業を展開するには、「指導事項（身につける力）の焦点化」が何より重要です。

新しい教科書では、これを実現すべく、「読むこと」の学習の手引きを二段階組みで構成し、見開きで一覧できるように工夫しました。下段の言語活動を通して、上段の読みの課題に取り組む、指導事項に即した力を身につけるといふ学習のあり方を、より明確に示したのです。

大切なのは、言語活動と教材の読み取りを一体化させて学習を進めること。そのために、ぜひ、この手引きをご活用いただきたいと願っています。



「たいせつ」コーナーでは、身につけたい力を箇条書きで整理しています。「話すこと・聞くこと」「書くこと」単元でも同様に「たいせつ」コーナーを設けています。



「あさ」「さあはじめよう」(一年上) 国語の学習開きを、楽しく①



▶1年上「あさ」(P1)



▲1年上「さあ はじめよう」(P9)

「さあはじめよう」
第一教材に続く、「さあはじめよう」は、国語学習の「スタートブック」としての役割をもちます。そのことがひと目で分かるよう、ページ全体を緑で囲み、以降の教材と区別しました。幼稚園・保育所での体験を生かしながら、小学校で学ぶための基本的な姿勢を確認していきます。

「さあはじめよう」教材一覧

- ・なんて いおうかな
(学校生活の言葉を知る)
- ・どんな おはなしか
(お話に出会う)
- ・姿勢と鉛筆の唱え歌
(正しい姿勢で、正しく持つ)
- ・どうぞ よろしく
(初めて名前を書く)
- ・ここの おおきさ、どう するの
(適切な声量を知る)
- ・うたに あわせて あいうえお
(あいうえおと出会う)
- ・ことはを つくろう
(文字に親しむ)



一年生。国語学習のすべてが、ここから始まります。
入学前の体験を生かしながら、楽しく国語に出会い、学習の基本を身につけていけるよう構成しました。

第一教材「あさ」

入門期第一教材は、国語との出会い。入学したばかりの子どもたちのわくわくした気持ちを大切に、等身大の子どもたちが、友達や先生と触れ合う場面を取り上げました。

絵とともに示した詩「あさ」は、小学校『国語』の編集委員でもある作家、中川李枝子さんの書きおろしです。

手をつなぐ、輪になる、広がる——これから一緒に学んでいく友達や先生と、声を出しながら身体を動かして、学び合うクラスづくりをしていただけたらと思います。

みんなで学ぶ楽しさを

筑波大学附属小学校教諭
青山由紀

第一教材「あさ」では、ぜひ、子どもたちに「集団で学ぶ楽しさ」を経験してもらいたいと思います。

絵の中に、言葉にしたくなるしかけがいっぱい。ここでは、自由に言葉を出させたいですね。一人が何かに見つけると、きっと別の子が他に気づくはず。友達の言葉を聞き、自分の言葉をつなげていくことで、みんなで学ぶという国語学習の素地をつくることができます。「本音だ!」「他にもあるよ!」という声が上がると、そんな授業になるといいですね。授業を構想する前にぜひ、続く「さあはじめよう」までを通してご覧ください。「あさ」での経験が生きる学習が随所に見つかるはずです。





「言葉の準備運動」(二・三・四年上、五・六年)

国語の学習開きを、楽しく②

四月、新しい学習や新しいクラスがスタートする時期に、心や身体が緊張してこわばってしまう子どもたちがいるのではないだろうか。そんな子どもたちの心と身体を解きほぐし、ともに学ぶための関係性づくりができる教材を設けました。

「言葉の準備運動」とは

二・六年の学年初めには、声や身体を使って、遊びの要素も取り入れながら、子どもたちの緊張を解きほぐす「言葉の準備運動」の系列を設けました。

ゲーム的な活動を通して、場の雰囲気づくりを行うことは、演劇などのワークショップでも、「アイスブレイク」として取り入れられています。演出家として多くのワークショップを行ってこられた鴻上尚史さん(※)にもアドバイスをいただきました。各学年、発達段階に即した活動を位置づけました。

※鴻上尚史さんに、アイスブレイクについてお話を伺ったインタビューは、「小学校国語教育相談室81号」に掲載されています。

▼2年上「じゅんばんに ならぼう」(P6)



初めにイラストを大きく示し、活動のイメージがもてるようにしました。

活動の手順を、イラストとともに分かりやすく示しました。

活動のアレンジ例を示すことで、繰り返し楽しんで行えるようにしました。

活動のラインナップ

「聞くこと」を大切にしながら簡単なやり取りを通して、子どもたちの心と身体を和らげます。



みんなで輪になり、一人ずつ自己紹介をする。前の人の話を繰り返してから、自分のことを話す。
3年上「よく聞いて、じこしょうかい」(P8)



一つの言葉をばらばらにし、一人1音ずつ一斉に声に出す。聞く側は、言われた言葉を聞き取る。
4年上「ばらばら言葉を聞き取ろう」(P8)



友達に1分間インタビューをし、その内容の中で特に印象に残ったことを1文でみんなに紹介する。
5年「教えて、あなたのこと」(P10)



5、6人のグループで輪になり、一人1文ずつ話をつないで、2周する間に一つの話を作る。
6年「つないで、つないで、一つのお話」(P10)

声と身体で遊ぼう

作家・演出家 鴻上尚史

アイスブレイクでいちばん大事なものは、とにかくリーダーが楽しめ、周りが楽しめ、楽しく始まり楽しく終わること。だから、始める前には必ず、「これは遊びであって、お互いの緊張をほぐすためにするんだ」ということを楽しく参加者に伝える必要があります。そうでなければ、「うまくやらないきゃ」という義務感ばかりが芽生え、緊張が余計に増すことになりかねません。

学年初めの四月だけでなく、その後も折に触れ、アイスブレイクの時間を取り入れていくといいのではないだろうか。そうしてなんでも言える場を作って、コミュニケーションの力を伸ばしていつてもらいたいですね。

